

Q&A JR 姫新線の利用促進について(通勤・通学時間帯の増両)



楠 明廣 議員  
AKIHIRO KUSUNOKI



**問** JR 姫新線の利用促進について通勤・通学の時間帯は増両し快適性を確保しないと、今後もっと乗客は減少するのではないかと懸念はありますか。

**答** JR 西日本からは、「通勤・通学時間帯は混雑が見られるが、お客様にご乗車いただけている」保有している全車両を使用しているため、増結は困難な状況である」との見解が示されているが、あらゆる機会を通じて引き続き強力に要望していく。

**問** 県道44号相生穴栗線の進捗状況

**答** 穴栗市新病院の建設が予定されており、救命医療、防災、地域交流等、重要な幹線道路であることから、引き続き本市と穴栗市が連携し、兵庫県に対し事業実施に向け強く要望していく。

**問** 数年前に災害で平野橋が片側通行となった際に、市道大屋能地線を迂回路としていたが、

道路幅が狭く、対向車とすれ違うことが困難である。車の通行の妨げとなる電柱を移設し、法面を改良することで、通行の安全性が向上するのではないかと懸念はありますか。

**答** 電柱の移設は、老朽化による電柱の更新時に、通行に支障のない位置へ移設するよう占用者と協議し、法面の改良による道路拡幅は、かなりの費用を要することから調査検討していく。

**問** 新宮地域の大きな病院が閉院し、龍野地域の病院まで市民乗り合いタクシーで通院できるように要望を受けているが、タクシー会社との協議は、どのくらい進捗しているのか。

**答** 現在、たつの市デマンド交通運行共同体の代表及び各タクシー事業者ヒアリング調査を行い、課題の洗い出しをしているところであり、交通弱者の方々に可能な限り満足度の高い公共交通とすべく取り組んでいく。

- その他の質問事項**
- 国道179号平野橋付近の道路改良
  - 子どもたちの豊かな学びを育む教育環境の整備について
  - 市内小・中学校教職員の長時間労働について
  - 市職員の勤務環境の改善について
  - 世界の梅公園の修繕について

Q&A やる気とやりがいを持って、創造的に活動ができるたつの市に!



和田 美奈 議員  
MINA WADA



支え合いの地域づくり事業

**問** 地域の中で人と人との関係が希薄になっている状況下において、この事業は「地域の基盤づくり」そのもの。重要な役割を担っていたらいい市域・圏域協議体の活動をさらに充実させていくことが重要と感じる。社会福祉協議会に委託している圏域協議体では、地域の実際の困りごとを話し合い、解決に向けて地域の中で様々に実践していただいている。一方、市域協議体では各圏域協議体で出てきた課題を市の施策や事業に結びつけてもらうために会議をされていると思うが、年2回の開催では少ないのではないかと懸念はありますか。

**答** 今年度は2回だったが、今後は年度の間にも会議を開き、圏域から出てきた意見を吸い上げ、下半期で何が出来るか市域協議体でも考えていきたい。

**問** 圏域協議体から出てきた意見から、本市の事業につながった

取組はいくつかあるとのことだが、それを知らず、やりがいを感じておられない圏域協議体のメンバーもおられることは残念。しっかりと共有すると共に、事業化したモノを圏域協議体にフィードバックし、より良いものにブラッシュアップしてほしいかと懸念はありますか。

**答** これまで圏域の意見を反映して様々な事業を作ってきたが、それを圏域に共有したり返すことが不十分だった。今後は、しっかりと共有し、そこから出た意見を事業に反映していきたい。

**問** 事務事業評価を行う目的は、①市民への説明責任(透明性と市民参加)、②職員の意識改革(コスト意識、行財政改革の推進)。本市はあらゆる面でPRが下手だが、本市の強みをPRするためにも、事務事業評価を市民に公表するのはどうか。

**答** 「第3次たつの市総合計画」に合わせ、公表内容や公表手法等を含め検討していきたい。

**意見** 継続的な事業のスリム化のために「事業減量条例(仮称)」を制定することも検討すべき。

- その他の質問事項**
- ギャンブル依存症への対策